

平成 19 年度・平成 20 年度
～「実践型人材養成システム」普及のための地域モデル事業
実施団体好事例集～
【⑧社団法人愛知県自動車整備振興会(自動車整備士)】

○モデル事業導入にあたって

自動車の「安全確保」、「環境保全」という重大な社会的使命を担っている自動車整備業界であるが、中小零細企業が大半の業界構造であるため事業基盤は弱く、優秀な人材確保のネックとなり事業の継続、発展に大きな影響を及ぼしている。収益があがらず余裕のある従業員構成にすることができず従業員を育成することも難しい状況となっている。大企業に比べ不利な労働条件になりがちな整備業界ではあるが、各事業場の魅力アップと労働環境を改善することにより課題の克服に取り組むため当該事業を実施することとした。

○企業のメリット

- ・若手人材確保の機会が増やせる。
- ・自社に合致した中核人材を育成できる。
- ・若者の育成に積極的な企業であることをPRできる。
- ・助成制度を活用し教育経費を軽減できる。
- ・Off-JT 実施機関の当協会技術講習所が国土交通省指定機関なので、講習修了者は自動車整備士技能検定の実技試験が免除される。

○モデル事業実施（訓練実施）における好事例

〈訓練実施企業から〉

- ・今まで計画的な人材教育プログラムを持っていなかったが実践型人材養成システムに取り組んだことにより計画的にOJTを進めることができた。
- ・Off-JTのテキストやその他資料を活用することによりOJTの場面ごとに振り返りながら訓練が円滑に実施でき、大変役立った。
- ・訓練生自身が努力家だったこともあるだろうが、訓練を通じて技術の向上が見られ、無事に訓練が修了し、自動車整備士3級の資格取得も出来た。

〈訓練生から〉

- ・自動車整備に興味があり、普通科出身でも自動車整備士の資格が取得できるこの訓練に会社の方針で受けさせていただきました。企業実習では数人の上司の方から訓練を受け、自分自身でも自動車整備技術の認識が深まっ

たと思う。

○これから取り組む企業の方へ

訓練を実際に実施した企業からの声をご紹介します。

我が社では、自動車整備業も整備専門学校や工業系高校からの新卒者を採用できるケースが少なくなって来ていて新たな人材確保への対応が求められています。我が社では工業高校以外の新卒者を今年3月に初めて採用した。今の時代は工業系であるとか普通科であるとかではなく本人のやる気が大事なのではないでしょうか。実習経験がない若者には基礎学習が必要となり企業負担も大きくなりますが、このシステムには手厚い助成金制度があり企業の財政面での負担軽減に活用できます。

訓練生も一抹の不安を抱えながらのスタートでしたが現在は目を輝かせて仕事と勉強に励んでいます。